



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

山梨県 富士吉田市立明見中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：小菅 寧子 先生（セーリング）【出場オリンピック／北京2008大会】

■期 日：2023年7月7日(金)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・セーリング／ウィンドサーフィン競技で北京2008大会に出場したと自己紹介した後、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「友情」「協力し合う」、リスペクト：「ルールを守る」と説明し、運動の時間では、一生懸命頑張る、皆と協力し合う、ルールを守って皆で取り組むことの3つを約束事として参加してほしいと伝える。

○主運動等



・準備体操後、準備運動は「新聞じゃんけんバランス」を実施。新聞紙の上に立ち、小菅先生とのじゃんけんを行い、負けもしくはあいこの場合は、新聞紙から降りずに1回折り畳み、最後まで新聞紙の上に立っているかを競う。
 ・主運動は「大縄跳び」を実施(全3回)。2班1チームになり、1回目は8の字跳び、2回目は全員跳び、3回目はどちらかの跳び方で跳ぶ。引っ掛ったら1から数え直し、3回戦合計で跳べた回数を競う。全員跳びは跳んだ回数を回す人以外の跳んだ人数で掛けた回数を記録とした。



・運動の時間を振り返り、仲間と協力しながら大縄跳びに挑戦してもらった。冒頭に約束した3つの約束事を守りながら参加できたかを生徒へ確認し、座学の時間では、運動の時間に皆が感じたことや、オリンピック出場までの過程を話し、オリンピックバリューの3つの価値について、さらに深掘りして考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：小菅 寧子 先生（セーリング）【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年7月7日(金)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



•映像を見せながら、セーリング競技にはヨットやウィンドサーフィン等の種目があること、ヨットは風上に向かい、45度の方向にしか進めないこと、折り返し地点まで進んだら風下に戻るコースを複数回往復すること等を解説。オリンピックに出場する選手は幼少期から競技をしているイメージがあるかと思うが、大学生の時にウィンドサーフィンに出会い、オリンピック出場を目標に掲げ、挫折もあったが諦めずに10年間厳しい練習を積み重ねた結果、北京2008大会に出場することができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返ってオリンピックバリューについて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「皆で協力できた」「仲間と諦めずに全力で取り組めた」「最後まで諦めなかった」等

フレンドシップ：「声を掛け合い士気を高められた」「さらに仲が深まった」「お互いを褒め合った」等

リスペクト：「お互いに尊重し合った」「ルールを守った」「責めるのではなく励まし合った」等



•座学の時間を振り返り、皆が話し合って考えてくれたように、一生懸命諦めずに頑張ることはとても重要であり、自分も挫折した時に諦めずに一生懸命練習を続けたことで、オリンピックに出場することができた。オリンピックバリューの3つの価値は日常生活にも当てはまるので、将来の夢や目標が見つかった時はオリンピックバリューを意識しながら、諦めずに頑張ってほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：小菅 寧子 先生（セーリング）【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年7月7日(金)

■ **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・セーリング／ウィンドサーフィン競技で北京2008大会に出場したと自己紹介した後、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「友情」「協力し合う」、リスペクト：「ルールを守る」と説明。一生懸命頑張る、皆と協力し合う、ルールを守って仲間を尊重しながら取り組むことの3つを約束事として参加してほしいと伝える。

○主運動等



・準備体操後、準備運動は「新聞じゃんけんバランス」を実施。新聞紙の上に立ち、小菅先生とのじゃんけんを行い、負けもしくはあいこの場合は、新聞紙から降りずに1回折り畳み、最後まで新聞紙の上に立っているかを競う。
 ・主運動は「大縄跳び」を実施(全3回)。2班1チームになり、1、2回目は8の字跳び、3回目は全員跳びで跳ぶ。引っ掛ったら1から数え直し、3回戦合計で跳べた回数を競う。全員跳びは跳んだ回数を回す人以外の跳んだ人数で掛けた回数を記録とした。



・運動の時間を振り返り、どのようにオリンピックバリューを意識したか問い掛けると「ミスしても責めず、声を掛け合った」「お互いにアドバイスをした」「皆で数を数えた」等の発表があった。座学の時間では、皆が感じたオリンピックバリューや、オリンピック出場時の経験も踏まえながら、オリンピックバリューについて、さらに深掘りして考えていきたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：小菅 寧子 先生（セーリング）【出場オリンピック／北京2008大会】

■期 日：2023年7月7日(金)

■ク ラ ス：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像を見せながら、セーリング競技にはヨットやウィンドサーフィン等、10種目あること等を説明。オリンピックに出場する選手は幼少期から競技をしているイメージがあると思うが、大学生の時にウィンドサーフィンに出会い、オリンピック出場を目標に掲げ、挫折もあったが友人や周りの人の支えがあったからこそ、諦めずに厳しい練習を積み重ねた結果、北京2008大会に出場することができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返ってオリンピックバリューについて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「諦めずにベストを尽くした」「仲間と諦めずに全力で取り組めた」「最後まで諦めなかった」等

フレンドシップ：「アドバイスした」「皆と一緒に考えて話し合った」「協力した」等

リスペクト：「責めずに褒めた」「ルールを守り、フェアプレーをした」「仲間を大切にした」等



・座学の時間を振り返り、皆が考えてくれたように日常にもオリンピックバリューは含まれているので、普段の生活でも意識してほしい。中学2年生の時は、体を作るためにしっかりと食事をするのが重要である。自宅等で用意してもらった食事を仕方なく食べるのではなく、作ってくれた人に感謝しながら、自分の体のためにその意味を考えながらしっかりと食べてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

